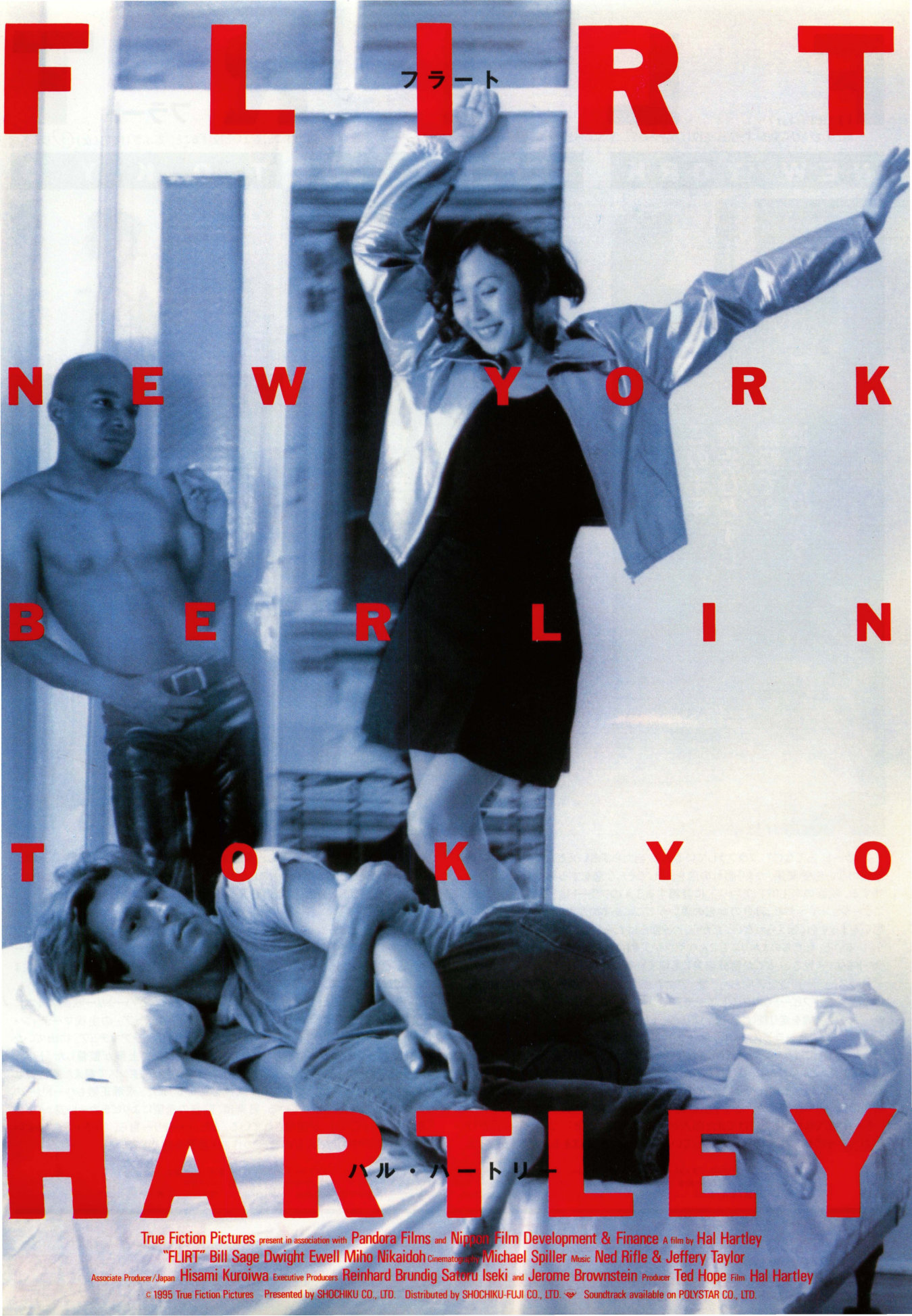




FLIRT

フラート

NEW YORK

BERLIN

TOKYO

HARTLEY

ハル・ハートリー

True Fiction Pictures present in association with Pandora Films and Nippon Film Development & Finance A film by Hal Hartley

"FLIRT" Bill Sage Dwight Ewell Miho Nikaidoh Cinematography Michael Spiller Music Ned Rifle & Jeffery Taylor

Associate Producer/Japan Hisami Kuroiwa Executive Producers Reinhard Brundig Satoru Iseki and Jerome Brownstein Producer Ted Hope Film Hal Hartley

© 1995 True Fiction Pictures Presented by SHOCHIKU CO., LTD. Distributed by SHOCHIKU-FUJI CO., LTD. Soundtrack available on POLYSTAR CO., LTD.

FLIRT

フラート

FLIRT [flɔɪt]

vt. ① ひらひら動かす、ひよいと投げる。——vi. ① ふらっと考える。② (男女が) ふざける。——n. ① ひらひら動かすこと、ひよいと投げること。② ふざける男(女) ③ シンギン者!

NEW YORK

BERLIN

TOKYO



「この半年、
彼女ひとすじ…」
「勲章でも
欲しいのか?」



「僕たちの未来が
見えない…」
「あるとわかれば、
見る必要はないわ」



「彼も好きだけど、
愛するのはあなた」



“フラート”ってなに? フラフラしている人? 当たらずといえども遠からず。深い感情のない恋愛関係、つまり戯れの恋を、そしてそんな恋をする男女、浮気者を意味する。映画の『FLIRT フラート』に登場する3人のフラートは、不器用で、コミュニケーションがへたで、自分の本当の思いがどこにあるのかよくわからなくて、その思いをまっすぐに伝えられない。だから、ハタからはだらしのないヤツと思われてしまう。いるいる、私たちのまわりにもこんなヤツが。でも、ちょっと待って。この3人のフラートをよく見ると、どこか自分自身にも似ているような…

『トラスト・ミー』『シンプルメン』『愛・アマチュア』と、一見平凡な日常に潜む奇妙な現実をオフビートなリズムとユーモアでつづって、ニューヨーク・インディーズ・シーンの最前線を走り続けているハル・ハートリー。長篇第5作目に当たる『FLIRT フラート』は、ニューヨーク、ベルリン、トウキョウで起こる3つの物語。といってもただのオムニバスではない。まったく関連のないそれぞれの都市の登場人物たちは、(言語は違えど)ほとんど同じ台詞をはなす。“異なる3つの場所で同様の状況が起こったとき、異なる文化と登場人物の異なる個性や性別によって、どんな変化、活力の違いが現れるのか”とても挑戦的でユニークな実験映画なのだ。

6ヶ月間、いい関係が続けてきた恋人が外国に旅立つことになった。3ヶ月だけとはいえ、その地には元の恋人が待っている。「二人に未来はあるのだろうか? イエ

スカノーで答えて!」。飛行機の出発直前に恋人から突きつけられた最後通牒にもすっきり答えを出せず、1回キスしただけのちょっと気になる既婚の知人に会いに行く主人公。しかし、結婚生活の破局を悲観したその配偶者が、自殺用だといって銃を持ち出し…

深刻なシチュエーションで大まじめに語られる、どこかズレた台詞とリアクション。その動きや台詞の“間”の沈黙からは、えもいわれぬおかしさがこぼれる。ニューヨーク、ベルリン、トウキョウのフラートは、同じ台詞を発しながら、違う感情が生まれ、微妙に異なるエンディングに至る。

ニューヨーク篇の出演者は『シンプルメン』の弟役などハートリー映画の4本に出演しているビル・セイジや、『トラスト・ミー』『愛・アマチュア』の主演マーティン・ドノバンらお馴染みのメンバー。ベルリン篇は、やはり『愛・アマチュア』に出ていたドワイト・ユウエルが“フラート”役。トウキョウ篇では、村上龍が監督した『トバース』を見てハートリーが惚れ込んだという二階堂美穂が、ダンスで鍛えた感性でサイレント映画風の味わいを醸し出す演技を見せる。また、永瀬正敏もハートリーのアシスタント役で顔を出している。音楽は、監督の希望によりピチカート・ファイヴの「Baby Love Child」が使用されている。また、ハートリー自ら、ネッド・ライフルという名で映画の中のほとんどの音楽の作曲・演奏を担当している。

1995年/アメリカ・ドイツ・日本合作/トルー・フィクション・ピクチャーズ製作/カラー/1時間24分/35mm/ワイドサイズ/提供:松竹/配給:松竹富士

監督・脚本:ハル・ハートリー/撮影:マイケル・スピア/音楽:ネッド・ライフル+ジェフリー・テイラー/オリジナル・サウンドトラック盤:ポリスター

出演:ビル・セイジ/バーカー・ボージー/マーティン・ドノバン/ドワイト・ユウエル/ジーノ・レクナー/二階堂美穂/藤原悠三/ハル・ハートリー/原千果子/永瀬正敏

陽春《都内独占》ロードショー!

※特製ポストカード付前売券好評発売中/〈恵比寿ガーデンシネマ劇場窓口にて限定1000名様〉

前売鑑賞券(前1500円/中1300円/後2800円)好評発売中/〈(後券は劇場)

●満席および上映開始後のご入場はできません。●事前に混雑状況をお問合せ下さい。

定員制・入替制

恵比寿ガーデンプレイス内・恵比寿三越となり 03

恵比寿 ガーデンシネマ (5420)

6161